資料１

不快を表す本人の表出、表現の理解について

（１） 本人の表出、表現

本人の状態、行動を不快の表出、表現として捉える
不快の表出→不快の状態がそのまま表れる
不快の表現→人への訴え

感情表出・表現表情態度	怒り、泣き… 緊張している、イライラする、むっとしている、過敏、表情がない、 cf.（不快な時に笑う）
問題行動	自傷、他害、こだわり、強迫行動、パニック、… 不快な状態の表出、もしくは訴えと考えられる
日常生活動作（極端）	普通の動作だが、１時間トイレから出てこないなど、極端な場合
発声・言葉	奇声（不快の表出） 言語表現（←間接的な表現/例：カラスさんのいじわる）

（２） 行動の文脈の理解

その状態、行動がどのような文脈で生じたかを明確にする
因果関係についても分析

その行動が
①いつから生じたか
② どんなときに起こるか
③ 誰に対して起こるか
④ どこで起こるか（場所）
⑤ 以前に同様な行動が認められたか（そのときの状況、行動の意味合い）

⑥ その行動の前後に関係する出来事や状況がないか（本人、家庭、園、通園時）
- 因果関係と前後関係を混同しないこと
- 因果関係がある場合、そのつながりが明確で、確かめられること

（３） 原因の推測、意味の理解

(1) (2) より、仮説を立てて、不快の原因を推測する

① 生理的レベル
- 睡眠不足、空腹、喉の渇き、排泄、寒暑、性的欲求（生理－心理）
- 痛み（歯痛、頭痛、腹痛、生理痛）
- 発作の影響（前兆も含む）

② 心理的レベル
- 環境の変化（引越し等）
- 本人と家族との関係から出てくる問題
- 家族内のストレス（夫婦間、嫁姑間、兄弟間等の問題等）
- 援助者や周囲の人との関係の問題

③ 一次的な要求や苛立ちを推測し、行動の意味を理解する

（４） 本人、家族、援助者への確かめ

仮説の確かめ

① 本人
- 原因について話すとじっと聞いている、うなづく、変化がない等
- 聞いて分かり難い場合は実際の行動で確かめる（嫌だと推測される原因を取り除いて様子を見る等）

② 家族
- 父母等との話し合いを通して原因を確かめる
- 推測される原因を確かめられるよう父母等にかかわってもらう
- 家族との信頼関係が重要

③ 支援者
- 支援者の態度や行動も考えられる原因の一つとして考慮する
- 考慮した上で確かめる

本人の行動の意味を体系的に理解

＝

関係のこじれがなくなり，家族で互いに意志が通じやすくなる ⟶ 緒に暮らしやすくなる

分かりやすい表現が増える

→

本人のエンパワーメント ＝ 地域で安心して生活・社会参加の広がり

本人との信頼関係が深まる、家族と相談しあえる関係ができる

関係支援：本人と家族や周囲の人との関係を調整